

子どもと不条理 それでも世界は生きるに値する

第Ⅱ期

# 子どもと放射線

～「ヒロシマ」をテーマに～

Children and the Absurd: Still, the World is Worth Living in  
Children and Radiation: "Hiroshima"  
in Phase II

2023 10.30<sup>月</sup> - 2024 5.20<sup>月</sup>

開館日・時間：月曜日-土曜日 10時-17時

会場：聖心女子大学4号館

聖心グローバルプラザ1階 BE\*hive

入場無料

〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24 聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ  
PHONE: 03-3407-5811 E-MAIL: jimukyosei@u-sacred-heart.ac.jp  
HP: <https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/>

聖心女子大学  
グローバル共生研究所  
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHISF)

絵：紙芝居『ちっちゃいこえ』より  
(脚本/アーサー・ピナード  
絵/丸木俊・丸木位里「原爆の図」より  
2019年 童心社刊)

日本語 English  
WEB展示同時公開

For complete access in English,  
please visit the SHISF's online  
exhibitions portal.



グローバル共生研究所



WEB展示

聖心グローバルプラザ  
BE\*hive  
展示+ワークショップスペース

## 「子どもと放射線 ～「ヒロシマ」をテーマに～」

気候変動による自然災害や戦争など、現代ほど途上国や先進国を問わず「子ども」にとって不条理がはびこる時代はないのかもしれませんが、「子どもと不条理」を大きなテーマとし「子どもと放射線」をサブテーマにした本展では、特に「ヒロシマ」の放射線が与えた甚大なる影響・問題について、作家の作品を通じて焦点化します。

### 「ちっちゃい こえ」

詩人 アーサー・ピナード

『ちっちゃい こえ』(童心社)は、丸木俊と丸木位里の大連作「原爆の図」を土台に、詩人のアーサー・ピナードが脚本を手がけた紙芝居です。本展では、その上演現場の映像を展示します。人体に影響はないといわれる、しかし、「あとから あとから ころされる。サイボウを こわすものが そらから ふって、つちにもぐって、からだの なかまでもぐりこむ」――。詩人が見出した「原爆の図」のもうひとつの物語。すべての生き物の「サイボウ」に耳を傾けることが、放射線の本質を感じ取る入り口になります。

### 「記憶の解凍」

peaceアーティスト 庭田杏珠

庭田杏珠は、戦前の広島モノクロ写真をAIでカラー化したのち、写真提供者とのていねいな対話と考証のもと、手作業で色補正を繰り返し、鮮やかな「記憶の色」を再現しています。子どもたちの穏やかな日常は、また同時に、その後の想像を絶する惨禍を想起させるものでもあります。写真の彼方の子どもたちが体験したことを思うこと。その切実は、現在も尚、課題として残されています。

### 「ひろしま」

写真家 石内 都

石内 都は、皮膚や衣類を時間の器と考え、目に見えないものを撮りたいと写真を撮り続ける写真家として広く知られています。本展では、被爆者の遺品を撮った写真集『ひろしま』より、作品の一部を展示します。今見てもオシャレだと感じるようなワンピースや水玉のブラウスなど、女性と子どもの衣類の数々は、1945年8月6日の朝に一瞬にして奪われた日常と、言いようもない痛みを伝えています。

制作/株式会社森岡書店

特別展示室 2023年12月4日～

## 「《原爆の図》が未来に伝えること」

15部からなる「原爆の図」。丸木俊と丸木位里は、第1～3部「幽霊」「火」「水」を1950年に発表、最後の第15部「ながさき」を完成させたのは1982年でした。冷戦もあり戦争についての世間の受け止めめは大きく変わり、さらに「第3の核の時代」ともいわれる現代においてこそ「原爆の図」は、大きく響く存在となりました。俊と位里は、15部で終わりではなくこの先も「原爆の図」を描くつもりだったといいます。ふたりの問題意識を完結させることなく、「原爆の図」の存在意義がこれからどこへ向かうのか、未来に伝えることを、学芸員の岡村幸宜さんなど関係者の協力のもと展示します。

2023年10月30日BE\*hive同時公開

## 創立75周年記念常設展

### 『これまでの歩み、これからの道』

聖心女子大学の社会奉仕活動は、75年の歩みのなかでどのように育まれ歩んできたのか。

初代学長マザーブリット時代に築かれた本学の社会奉仕活動と、現代社会の課題に目を向け行動する学生の姿を展示しています。



## I期:子どもと戦争

2023年5月15日(月)-10月23日(月) ※終了

## II期:子どもと放射線

2023年10月30日(月)-2024年5月20日(月)

## III期:子どもと希望

2024年5月27日(月)-2025年4月頃(予定)

※会期は変更になる可能性があります。

## ワークショップのご案内

BE\*hiveの展示による学びをより深めるために、様々なワークショップをご用意しています。総合学習やその他グループ学習などの一環として、ぜひご活用ください。オンラインでも開催可能です。

### ◆テーマ例:

- 1. 子どもと戦争(2023年11月より一部リニューアル予定)**  
人類史は争いの絶えない歴史だと言えます。そこには多くの犠牲者があり、なかでも未来への希望を絶たれた子どもは最たる犠牲者であると言えるでしょう。子どもたちは戦争をどのように体験したのでしょうか。  
このワークショップでは、アウシュビッツへの中継地となったチェコスロバキア(当時)のテレジン収容所に暮らした子どもたちの描いた絵をはじめ、戦争が何であるのかを今に伝える様々な資料を題材に、「戦争と平和」と子どもの権利について考えます。
- 2. ジェンダー**  
当たり前だと思われていた「女性をめぐる常識」が大きく変化しつつある現代社会。私たちの日常生活や社会をジェンダーの視点で見ることを通じて、自らが行きたい社会を問い直してみよう。
- 3. 気候変動**  
気候変動の現状と原因を知り、自分たちの生活とのつながりを学び、さらに興味・関心を深めていきます。
- 4. 日本にいる難民**  
世界と日本の難民問題や日本に住む難民のエピソードを通して、難民問題について考えます。

### ◆対象・人数

原則として高校生以上、人数は20名前後(応相談)  
費用は無料/要事前予約(実施1か月前締切)

### ◆所要時間

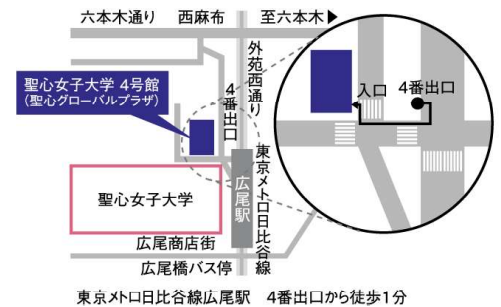
ご希望に応じておおよそ90分～120分程度で承ります

### ◆質問・申込先

TEL:03-3407-5811(代表)

E-mail:be-hive@g.u.-sacred-heart.ac.jp

ワークショップの企画・開発は、認定NPO法人開発教育協会(DEAR)  
<https://www.dear.or.jp/>と共同で行っています。



〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24

聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ

PHONE: 03-3407-5811

E-MAIL: jimu-kyosei@u-sacred-heart.ac.jp

HP: <https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/>

FACEBOOK INSTAGRAM

